

提・女人等、妙の一字（たもち）を持ぬればいれる仏種（かみり）も還て生ずるが如し。天台云、（「闍提は心有り猶作仏すべし。二乗は智を滅す、心生ずべからず。法華能く治す。復稱して妙と為す」と云云。妙樂云、（「但大と名けて妙と名けざるは、一には有心は治し易く無心は治し難し。治し難きを能く治す、所以に妙と稱す」）等云。此等の文の心は、大方広仏華嚴經・大集經・大般若經・大涅槃經等は題目に大の字のみありて妙の字なし。但生者を治して死せる者をば治せず。法華經は死せる者をも治す。故に妙と云ふ釈也。されば諸經にしては仏になるべき者も仏にならず。法華は仏になりがたき者すら尚（なお）仏になりぬ。仏になりやすき者は云にや及ぶと云道理立ぬれば、法華經をとかれて後は諸經にをもむく人一人もあるべからず。而に正像二千年すぎて末法に入りて、当世の衆生の成（じようぶつ）往（おう）生のとげがたき事は、在世の二乗・闍提等にも百千万億倍（ばい）すぎたる衆生の、觀經等の四十余年の経々に値て生死（じようじ）をはなれんと思（おも）はいかが。はかなしはかなし。女人は在世・正・像・末、総じて一切の諸仏の一切經の中に法華經をはなれて仏になるべからざる事を、靈山の聽衆として道場開悟し給へる天台智者大師定て云、（「他經は但男に記して女に記せず、今經は皆記す」）等云云。釈迦如来・多宝仏・十方諸仏の御前にして、摩竭提國王舍城の良、靈鷲山と申所にて、八箇年の間説給し法華經を智者大師まのあたり聞しめしけるに、我五十年の一代聖教を説く事は皆衆生利益のためなり。但し其中に四十二年の経々には女人、仏になるべからずと説き、今法華經にして女人成仏をとくとのならせ給しを、仏滅後一千五百余年に當て、靈鷲山より東北十方八千里の山海をへだて、摩訶戸那と申国あり。震旦国是也。此国に仏の御使として出世し給ひ、天台智者